

グローバル制御社会におけるメディア・技術・資本主義の 新たな連関に関する学際的研究

Interdisciplinary research on the new articulation of media, technology, and capitalism
in the global control society

水嶋 一憲 (MIZUSHIMA Kazunori)

本研究は、グローバル制御社会におけるメディア・技術・資本主義の新たな連関を学際的視点から解明するための社会理論の基盤構築を目指すものである。かかる目的を達成するために、2021 年度には、共著書を 1 冊、共訳書を 1 冊、単著論文を 1 本刊行するとともに、二つのシンポジウムで報告を行った。具体的には、ネグリ＝ハート『〈帝国〉』の問題設定を多元主義との関連で解説した拙稿を含む共著書『「多元主義」を理解するための 30 冊』（ECOSYX LAB）と、ネグリ＝ハートの〈帝国〉三部作に続く大著の共訳書『アセンブリ：新たな民主主義の編成』（岩波書店）を出版した。また、カルチュラル・スタディーズ学会からの依頼を受け、新型コロナウイルス禍以降の政治・メディア・資本主義の連関等を分析した単著論文「コモン／ウイルス再考：ポストコロナ時代の政治・メディア・資本主義の連関についての試論」を『年報カルチュラル・スタディーズ』9 巻（創文企画）に寄稿した。加えて、本研究の協力者である、ハーヴァード大学・依田富子教授とアレックス・ザルテン准教授に招待され、“FUTURISMS AND EAST ASIAN MEDIA ECOLOGIES”をテーマとするオンラインシンポジウム（ハーヴァード大学東アジア言語文明学部主催）で、“From Neo-Tokyo to Neo-China and Beyond: For the Navigation of Futures in East Asian Media Ecologies”という題の報告を行った。また、『アセンブリ』刊行を記念して、『〈帝国〉』から『アセンブリ』へ、ネグリ＝ハートの軌跡」をテーマとするオンラインセミナー（ジュンク堂書店主催）に招かれ、「〈帝国〉内での新たな内戦とパンデミック」という題の報告を行った。

このように本研究は 2021 年度に、共著書 1 冊、共訳書 1 冊、単著論文 1 本を刊行するとともに、国内外のシンポジウムやセミナーで招待報告を含めて 2 件報告することができた。それらを通じて本研究課題を予定通り進捗させることができたかと判断される。

今後の研究の推進方策としては、2021 年度に構築・整備することのできた土台をもとに、単著・共著・訳書の刊行に向けた研究テーマの整理と原稿の執筆を進めるとともに、学会／シンポジウムでの報告や研究調査等を通じて、多様な分野の研究者たちとの交流を深め、そこで得られた知見を本研究のエラボレーションに活用する。と同時に、新型コロナウイルス禍の影響で国内外の研究調査や対面型のシンポジウムの開催については今後も難しい状況が続くものと予想されるので、研究協力者をはじめ多方面と連携しつつ、適切な研究推進方策を探求していく必要がある。